



林野庁



アフリカの森林の持続可能な経営と SDGs2030

TICAD7 サイドイベント

ITTO、林野庁、JICA共催

後援：外務省、横浜市(予定)、神奈川県

1. 日時：2019年8月28日(水) 10:30 - 12:00
2. 場所：パシフィコ横浜展示ホール B02

3. プログラム

開会挨拶

- ゲアハート・ディタレ ITTO事務局長
- ロザリー・マトンド コンゴ共和国森林省大臣
- 本郷浩二 林野庁長官
- 鈴木秀生 外務省 地球規模課題審議官 大使

プレゼンテーション

- セシル・ンジェベト REFACOF(コミュニティ森林経営のためのアフリカ女性ネットワーク)代表「西・中央アフリカにおける女性主導による森林景観回復の促進を通じた地域コミュニティの貧困対策」
- クロード・カチャカ・スディ RIFFEAC(中央アフリカ森林環境トレーニング機構ネットワーク)地域コーディネーター「コンゴ川流域諸国における持続可能な森林経営グッドプラクティスのトレーニングにおける課題(合法で持続可能なサプライチェーンに関するもの)」
- 中田博 JICA国際協力専門員「多様なアフリカの森林経営 - 熱帯降雨林から半乾燥林まで」
- 仲井一志 ヤマハ株式会社楽器・音響生産本部調達技術部材料調達グループ主事「タンザニアの地域住民と連携したアフリカン・ブラックウッドの持続可能な調達の実現」

質疑応答

閉会挨拶

- 谷合正明参議院議員

4. 使用言語：英語（日英同時通訳あり）

5. 背景

アフリカの多様な森林は、アフリカの急激な人口増加の下で、人々の生活や経済発展を支え、多様な林産物や生態系の恵みを提供するなど、人々にとって極めて重要な役割を果たしています。持続可能な森林経営と幅広い林産物の利用は、2015年の国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に対して、気候変動対策、生物多様性の損失の防止、再生可能エネルギーの促進、持続可能な生産と消費形態の確保、水資源の管理、包括的な経済発展と雇用の促進、貧困の撲滅等の面で貢献しています。

しかしながら、多くの努力にもかかわらず、多くのアフリカの国で森林の減少と劣化が現在も急激に進んでおり、この状況は人々の生活条件や各国のSDGsを達成する能力に影響を及ぼしています。こうした背景の下、国際熱帯木材機関（ITTO）と国際協力機構（JICA）はアフリカの国々の持続可能な森林経営の達成と劣化した森林の回復への取組みを支援しています。この取組みは、国や地方政府、地域コミュニティ、民間部門、研究機関などの幅広い利害関係者とともに行われています。しかしながら、SDGsの達成には大きな課題が残っており、人材育成、重要な林産物や森林からのサービスの供給、気候変動や生物多様性の損失への対応など多様なニーズに対応できる総合的なアプローチが必要となっています。このような総合的なアプローチは、合法的で持続可能な林産物のサプライチェーンを発展させることも含むものです。

6. 目的

このサイドイベントでは、ITTO、JICA、民間企業、アフリカの国々、利害関係者の取組みを参加者と情報共有する重要な機会を提供します。彼らが、経済的、環境的、社会的に重要な林産物や森林からのサービスの提供のために持続可能な森林経営に取り組んだ、経験、教訓、ベストプラクティスを議論します。